

第9期宇治市生涯学習審議会 会議録

| | | | | |
|----------------------|----------------------|---|----------|----------|
| 名 称 | 第9期宇治市生涯学習審議会 第9回審議会 | | | |
| 日 時 | 令和2年12月18日(金)午後2時~4時 | | | |
| 場 所 | 生涯学習センター 2階 一般研修室 | | | |
| 出席者 | 委 員 | ○ 市橋 公也 | ○ 佐藤 るり子 | ○ 向山 ひろ子 |
| | | ○ 内田 徹 | ○ 杉本 厚夫 | ○ 森川 知史 |
| | | ○ 奥西 隆三 | × 長積 仁 | ○ 六嶋 由美子 |
| | | ○ 切明 友子 | ○ 中本 裕也 | |
| | | ○ 桑原 千幸 | ○ 西山 正一 | |
| | | ○ 小宮山 恭子 | ○ 林 みその | |
| | 事 務 局 | ○ 伊賀 和彦(教育部長) | | |
| | | ○ 上道 貴志(教育部副部長) | | |
| | | ○ 林口 泰之(教育支援センター長) | | |
| | | ○ 福山 誠一(教育支援課長) | | |
| | | ○ 齊藤 政也(生涯学習課長(兼)生涯学習センター所長) | | |
| | | × 宮本 義典(生涯学習課副課長(兼)生涯学習センター主幹(兼)生涯学習係長) | | |
| | | ○ 高橋 紀子(生涯学習課事業係長(兼)生涯学習センター主査) | | |
| | | ○ 森川 円(生涯学習課生涯学習係主任) | | |
| ○ 木口 悠(生涯学習課生涯学習係主任) | | | | |
| 傍聴者 | 2名 | | | |

会議要旨は、下記のとおりである。

・ 第8回審議会の会議録について

修正がないことを確認し、ホームページで公開する。 委員了承

1. 報告事項

➢ 生涯学習関連事業調査について

(事務局)

本調査は、全庁的な取組状況を調査・報告し、市民の自主的・主体的な学習活動が還元される仕組み、社会還元を目指すものである。市民活動の支援、講座やイベント、人材養成、啓発・展示等、様々な手法で市民の学習活動を支援する取組を「生涯学習関連事業」として、調査の対象とし、今年の5月に調査を実施した。調査報告書を作成後、10月に各課の所属長を中心に構成された幹事会で、12月には各部の部長を中心に構成された推進会議で、調査結果の報告と審議を行った。幹事会と推進会議を経て、調査結果がまとめられた。

教育委員会では、今後の生涯学習の推進を、教育の範疇にとどまらず幅広い視点で促し

ていくことを目指している。また、本調査結果を受けて、他課の取組を参考にしたり、他課の事業と共同するなど、横のつながりを生み、社会還元につながるシステムづくりを進めることにより、市民活動を活性化し、市全体の生涯学習を推進していきたいと考えている。

2. 協議事項

➤ 今期の審議事項について

(委員長)

審議事項に入るにあたり、本日の会議の進め方について事務局より説明をお願いしたい。

(事務局)

本日は、3つのグループに分かれてコミュニティスクール(以下CSという)に関わる熟議のシミュレーションをしていただく。各自が考える小・中学校の課題を付箋に記載して発表し、他の課題との関連性を模造紙に表してもらおう。学校運営協議会の本来の流れは、課題を出して解決策を考えることだが、本日は時間の都合上、課題を出し合い関連性を検討するところまでをお願いしたい。

(委員長)

これまでCSの話を進めてきたが、学校運営協議会のシミュレーションをすることで、熟議していく上での課題や提案ができると考えている。

下記のグループに分かれて討議

| グループ | グループ1 | グループ2 | グループ3 |
|----------|--------|--------|---------|
| 会場 | 会議室1 | 会議室2 | 視聴覚研修室 |
| | 市橋 公也 | 内田 徹 | 奥西 隆三 |
| | 切明 知子 | 小宮山 恭子 | 桑原 千幸 |
| | 佐藤 るり子 | 林 みその | 中本 裕也 |
| | 西山 正一 | 六嶋 由美子 | 向山 ひろ子 |
| | 森川 知史 | | 林口センター長 |
| ファシリテーター | 齊藤課長 | 福山課長 | 森川主任 |

各グループで出た意見

<グループ1>

- ・登下校、放課後、休日誰が責任？
- ・教員の負担が多すぎる。例えばクラブ活動等。
- ・教頭業務
- ・GIGA スクール構想に対応が難しい職員
- ・感染症対策を講じながらの学びの保障
- ・令和の日本型学校教育

- ・個別最適化な学び
- ・学校の先生への負担が多い中、どの程度協力が得られるのか。
- ・知識を教えることと自ら考えることをどのように育てるか。
- ・学校にかかわる人の問題。子どもの自発性を伸ばせるか等。
- ・一緒に学ぶ活動の必要性。
- ・子どもの権利条約をみんなのものに(虐待問題、意見表明、自己決定、身体を守る、保護される、居場所の保護、心のゆとり)
- ・性教育をもっと気軽にオープンに
- ・学校の教員が地域との連携に消極的
- ・学校 地域 思いの一致
- ・目指す子ども像が地域に浸透していない
- ・学校と連携して地域で子どもたちの成長を支えるためにはコーディネーターが学校内だけではなく地域にも必要。
- ・人材確保
- ・継続している団体は経験者が多い
- ・先生の働き方改革のためにも地域の中のコーディネーターが必要
- ・人材育成
- ・現地域活動はおうおうにして人が定まっている様子
- ・本コミュニティスクールの考え方を地域へどの様に広報するのか？
- ・子どもが過ごす学校と地域の連携が子どもや親や手助けしたい地域の人には見えない！
- ・子どもも親も勉強や家庭に気がかりな事があっても学校に相談に行けないし、身近に相談できない状況
- ・新たなリスクに対応できるか？施設設備
- ・卒業には年限だけが関係しているのはどうか？

<グループ2>

- ・学校はウェルカムなの？
- ・教員のキャパを超える？！
- ・校長先生が嫌がる？！
- ・大学生の学習ボランティアを中学校へ
- ・放課後教室拡充、新設
- ・職業体験先を地域の人に見つけてもらう
- ・道具活用 地域の力
- ・登下校時の定点見守りは？
- ・災害時の対応 地域の方主導になると良い(避難所)
- ・学校参観日、学校見学を地域皆で
- ・異年代との交流
- ・教員の労働時間 部活動、委員会活動、そうじ給食時間等を地域の方に入っただく。
- ・非対面でもわかりやすく

- ・教員と地域の信頼関係！
- ・地域の人と学校のすみ分け必要
- ・学校ボランティアと教員の交流
- ・役員の年齢が高い 地元の年齢が高い
- ・委員の任期必要！！活性化のために

<グループ3>

- ・保護者対応の困難さ
- ・不登校
- ・学力向上
- ・おらが村の学校としての意識をどう地域住民に持っていただくか
- ・人材育成
- ・先生方が若い
- ・地域とともに未来の担い手を育てるという理念
- ・社会に開かれた学校という意識
- ・PTA 現役とのつきあい方
- ・地域に開かれた学校？
- ・開かれた学校ではない
- ・行きにくい
- ・校長によって態度が違う
- ・かくす 色々な事を
- ・校長、教頭、主任しか話をしない
- ・いい事柄しか聞かせてもらえない 課題を話さない学校側
- ・子ども数の減少と学習
- ・卒業後の子どもたちと学校とのつながり
- ・教頭、保護者、子どもたちとの関係性
- ・休校期間の学びは？
- ・GIGA スクール構想への対応
- ・家庭環境の差(保護者支援)

(事務局)

各グループで熟議した結果について発表をお願いしたい。

(委員)

グループ3では、学校と他者との繋がりを中心に課題が出た。例えば、地域との繋がり、保護者との繋がり、学校内部の繋がりについて課題が挙がった。また、熟議において重要なことは顔を合わせて話し合うことという結論に至った。表面的な話し合いではなく、本音を言い合うことができれば今までよりもさらに良い話し合いができると感じた。

(委員)

グループ1では、学校と地域の思いが一致できることが重要だという結論に至った。学校、子どもたち、地域の思いのベクトルが同じ方向に向かう必要があり、その中で人材確保や教員の負担といった課題もある。子どもや親、祖父母が集えるような地域づくりも必要である。また、新型コロナウイルス感染症の様な異常事態における危機管理も必要だと感じた。

(委員)

グループ2では、学校に支給される備品(タブレット等)を活用する際に、地域の力が役に立つのではないかといった意見が出た。また、子ども同士の会話が少ないといった課題も挙げられた。その他、CSが立ち上げられた際には、委員の任期を定めた方が良いのではないかという意見があった。同じ人が継続して委員をすることでやりにくい部分もあるからだ。加えて、地域が学校にどの程度まで介入して良いのかといった意見もあった。

(委員長)

今回シミュレーションをしていただいたが、皆さんは熟議の経験が豊富なので参考にはならなかった。おそらく、短時間でこれだけの結論に至るのは一般的には難しいだろう。熟議において参加者の本音を引き出すことが大事であり、ファシリテーターの役割が重要になってくる。

熟議において一番初めにすべきことは、課題の構造化である。課題を構造化することでどこを議論すべきかが明確になる。次に、出てきた課題が本当に課題なのか検証する必要がある。その際に、OECDの学びの羅針盤が役に立つだろう。そして、課題が課題と認められた際に、その課題がなぜ生まれたのか考える必要がある。

CSの熟議においては、一番大事なことは全員が当事者として話し合うことである。今回のシミュレーションで気づいた点等があればご意見をいただきたい。

(委員)

人材不足という話があったが、人材を掘り起こせていないという問題もあるのではないかと感じた。

(委員)

私の住んでいる地域は、人材は少ないが人材の情報は豊富である。人材バンクの地域版のような仕組みがあれば良い。

(委員)

今回は話し合う相手の立場を知っているので話しやすかった。今後、CSで熟議する際にも、話し合うメンバーの関係が大切であり、メンバー間に距離感があると本音が出にくいだろう。話し合いの場の雰囲気作りを優先的に行う必要があると感じた。

(委員)

CSにおいて学校をどうしていくかという話もあるが、一方で地域をどうしていくかという課題もある。CSを進めることが地域のコミュニティを活性化させるきっかけになればいい。

(委員)

国としてCSの話は進められていくのだろうか。

(委員長)

国が言っていることと各都道府県でしていることが違うことはよくあることである。地域によって抱えている課題や特徴が違うため全国一律で教育をすることは難しいだろう。

(委員)

転勤の多い家庭等、この先同じ地域に住み続けることができない家庭の声をどうやって吸い上げて行くのかという課題がある。

(委員)

住んでいる地域の人材について日頃から情報収集しておく、いざという時に役立つ。

(委員長)

今回のシミュレーションを通してCSや熟議について理解が深まったと思う。

3. その他

➤ 令和3年宇治市成人式について

(事務局)

令和3年1月11日(月・祝)に成人式を開催する。新型コロナウイルス感染症対策として、2回に分けて開催し、催事時間も大幅に短縮する。そのため、来賓、主催の臨席者についても大幅に縮小する。今回の成人式については、審議会委員の参加はない形とさせていただくので、ご了承いただきたい。

また、「第62回全国社会教育研究大会新潟大会の配信について」という資料をお配りしている。今月末までの期間限定で配信されているので、是非ご覧いただきたい。

・ 最後に

(委員長職務代理)

本日は楽しく熟議が重ねられた。来年もまた元気に皆様にお目にかかりたい。良いお年をお迎えください。

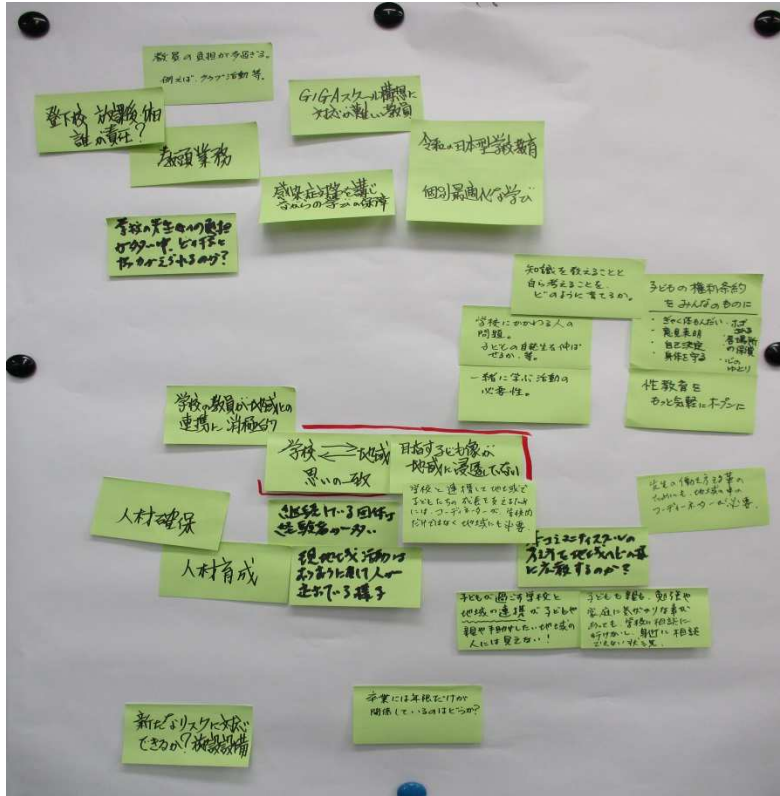
< 次回の会議について >

第9期宇治市生涯学習審議会 会議録

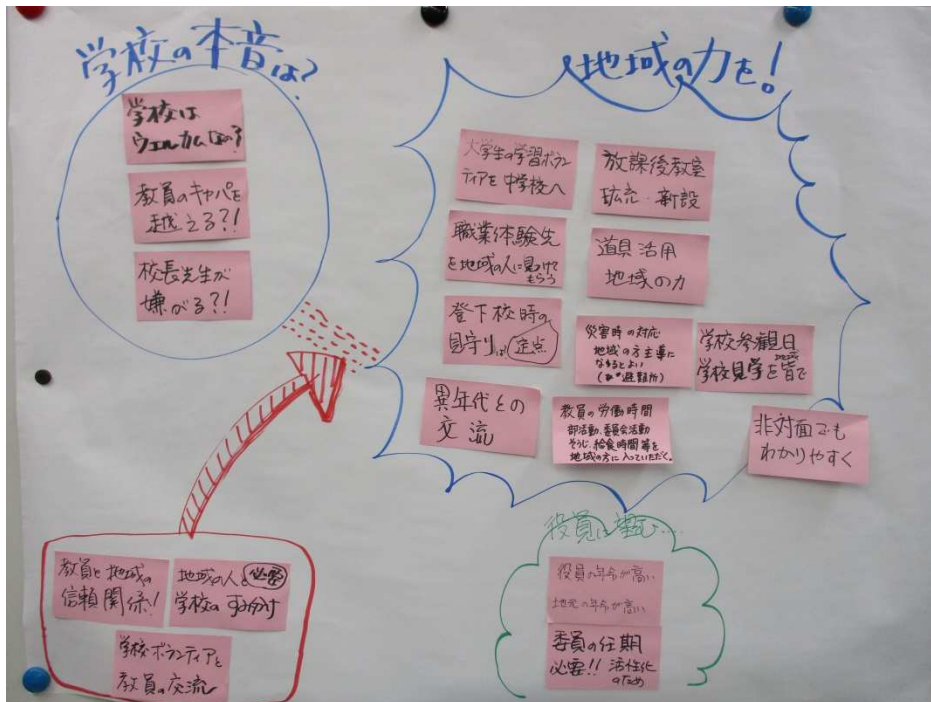
令和3年2月19日(金)午後2時00分から 生涯学習センターにて

<各グループでの討議結果>

グループ1



グループ2



グループ3

